

**SPECIFICATIONS FOR COMPETITION  
EQUIPMENT AND COMMERCIAL MARKINGS  
EDITION 2017/18 (JUNE 2017)**  
競技用品仕様および商標仕様

翻訳日：2018年1月1日

原文と相違がある場合は、原文を優先とする。

**A. 定義**

原則

FIS 評議会は名称、デザイン、商標、ロゴ、その他独特な表示の使用が FIS 規則及びガイドラインを遵守しているか最終決定をする権限を持つ。

FIS はこの精神と目的が尊重されるためにこれらの規則とガイドラインを翻訳し、補完する権利を有する。

**1. 競技用品**

「競技用品」という言葉は、スキー競技において競技者が使用する、これらは技術的機能を有する衣類や道具すべての用品を指している。競技用品全体で一つの機能を形成する。これに関連して次の点が確認されなければならない。

- a) 安全性という原則
- b) 公正性という原則

**1.1 メーカーの効力**

「メーカーの効力」とは自身で製造および、その企業の責任において通常の商慣習に従って下請負に製造を依頼し、管理をし、市場で競技者に提供されている競技用品を扱っている企業の効力を指す。

メーカーは商業用マークがメーカー識別の使用として認められる条件として、FIS の要求に応じて、小売りの競技用品市場における活動状況や製造管理、広告宣伝活動などに関する商品ごとの販売経費などの証拠書類を提出しなければならない。

ジャンプスキーの特性として、FIS は小売りレベルにおける商業活動の証拠を不要とし、メーカーの効力として例外的に認めることができる。

**1.2 メーカー識別**

「メーカーの識別」は、商品名、ブランド、ロゴ、または特定の競技用品が製造されて、市場に商業的に提供される効果的なメーカーの明示を意味している。

メーカーの識別はスポーツ用品のブランドであり、それはメーカー識別の原則として競技用品であり、(i) 原則としてスポーツ用品として使われていない、または (ii) 混同されやすかったり、他の業種で使用されていたりするものでない。

ジャンプスキーの特性として、FIS は、上記の要件を満たさないメーカー識別の使用、特に以前から受け入れられている商業マークを例外的に受け入れることができる。この例外は IOC によって発行されている商業マークに関する規定が、IOC が関係するスポーツイベントでの

規制に当てはまらないことは明確である。

### 1.3 競技用具

競技用具は、競技中に必須の機能を果たすが、実際の競技から分離できる用具を指す。

例：スキー、ビンディング、ブーツ、ポール、衣類、ヘルメット、スキーゴーグル

### 1.4 追加用具（アクセサリ）

追加の競技用具（アクセサリ）は、競技用具の技術機能に影響を及ぼし、認められている固定具によって用具に直接取り付けられている用具である。そのようなアクセサリは競技中に基本的な機能を有さない。

例：パラブロック、プラスチック製トップカバー、追加重量、バックプロテクター

### 1.5 補助用具

補助用具は、競技用具として基本的な機能を持たず、追加用具に分類されない用具である。

例：計測器機

## 2. 競技用品における商標

省略

## B. アルペン競技用品

ダウンヒル、スラローム、ジャイアントスラローム、スーパーG

計測は任命された FIS 公認競技用品測定員が FIS 公認測定器を利用して測定した場合にのみ有効となる。

### 1. アルペン競技スキー

#### 1.1 定義

スキーとは主にダウンヒル、スラローム、ジャイアントスラローム、スーパーG の競技で地形に合わせ、重力を利用するものである。横方向の力を変換するために、スキーの表面にあるエッジは、摩耗や破損に耐性のある固い金属で主に作られている。

#### 1.2 制限事項

##### 1.2.1 幾何学的機能

マスターズ競技者は後述されるスキー長（スーパーG を除く）、ラディウスおよび幅に関する仕様は推奨とする。マスターズ競技者のスーパーG における最短スキー長は強制である。

1.2.1.1	Ski length (Minimum) Ski length measurement tolerance of +/-1cm <b>** -5cm tolerance for FIS</b> <b>* Men U18 (first year) at FIS</b> <b>-10cm tolerance</b>	DH Ladies	<b>210 **</b>
		DH Men	<b>218 **</b>
		SG Ladies	<b>205 **</b>
		SG Men	<b>210 **</b>
		GS Ladies	<b>188 **</b>
		GS Men	<b>193 **</b>
		SL Ladies	<b>155</b>
		SL Men	<b>165 *</b>
1.2.1.2.1	Profile width under Binding	DH Ladies	<b>&lt;=65</b>
		DH Men	<b>&lt;=65</b>
		SG Ladies	<b>&lt;=65</b>
		SG Men	<b>&lt;=65</b>
		GS Ladies	<b>&lt;=65</b>
		GS Men	<b>&lt;=65</b>
		SL Ladies	<b>&gt;=63</b>
		SL Men	<b>&gt;=63</b>
1.2.1.2.2	Profile width in front of Binding	DH Ladies	<b>&lt;=95</b>
		DH Men	<b>&lt;=95</b>
		SG Ladies	<b>&lt;=95</b>
		SG Men	<b>&lt;=95</b>
		GS Ladies	<b>&lt;=103</b>
		GS Men	<b>&lt;=103</b>
		SL Ladies	
		SL Men	
1.2.1.3	Radius (Minimum)	DH Ladies	<b>50</b>
		DH Men	<b>50</b>
		SG Ladies	<b>40</b>
		SG Men	<b>45</b>
		GS Ladies	<b>30</b>
		GS Men	<b>30</b>
		SL Ladies	
		SL Men	
2.1.2	Max. Standing height (ski/plates/binding)		<b>50</b>

## U14 and U16

			U14	U16
1.2.1.1	Ski length	SG Ladies		<b>&gt;=183</b>
	Ski length measurement tolerance of +/-1cm	SG Men		<b>&gt;=183</b>
		SL Ladies	<b>&gt;=130</b>	<b>&gt;=130</b>
	SL Men	<b>&gt;=130</b>	<b>&gt;=130</b>	
	GS Ladies	<b>&lt;=188</b>	<b>&lt;=188</b>	
	GS Men	<b>&lt;=188</b>	<b>&lt;=188</b>	
1.2.1.3	Radius (Minimum)	SG Ladies		<b>30</b>
		SG Men		<b>30</b>
		GS Ladies	<b>17</b>	<b>17</b>
		GS Men	<b>17</b>	<b>17</b>
1.2.1.2.1	Profile width under binding	GS/SG	<b>&lt;=65</b>	<b>&lt;=65</b>
2.1.2	Max. Standing height (ski/plates/binding)		<b>50</b>	<b>50</b>

>= minimum

<= maximum

## Masters

			Masters
1.2.1.1	Ski length (Minimum) For MAS racers the specifications in regard to ski length (except SG) are recommendations.  The minimum ski length for SG skis is compulsory	SG Ladies **	<b>180*</b>
		SG Men **	<b>185*</b>
		GS Ladies	<b>180***</b>
		GS Men	<b>185***</b>
2.1.2	Max. Standing height (ski/plates/binding)		<b>50</b>

1) No length, width or ski radius restriction for Ladies above 55 and Men above 65 years of age.

#### 1.2.1.1 スキー長

最小の長さ、「開発長」は ISO 規格に基づいて $\pm 1\text{cm}$  の測定公差とする。スキーの長さはスキーに記されなければならない。

##### スラロームスキーにおける長さの精度

本体と異なる素材がスキー先端に使用されているとき、測定はスキーの自然な形状に対応してそれが覆っている範囲までとする。メーカーは計測を簡単にするために自然な形状の先端に印をつけなければならない。疑いを防止するために、本体の一部としてスキー先端を特徴的に設計することは許可されている。

##### 12 歳以下の子供に対する推奨事項

12 歳以下の子供に対する推奨事項：130cm 以下のスキー長の場合は、すべての種目を 1 セットのスキーのみで出場する。

#### 1.2.1.2 幅

ビンディング下およびビンディング前方における滑走面幅については、条項 1.2.1.2.1 および 1.2.1.2.2 により、公差許容はなしとする。

##### 1.2.1.2.1 ビンディング下の幅

表を参照

##### 1.2.1.2.2 ビンディング前方の幅

表を参照

#### 1.2.1.3 ラディウス

ラディウスはスキーに表示されなければならない。ダウンヒルスキーにおけるラディウスの測定は調整公差を $-1\text{m}$  とする。

ラディウスの測定方法は 43 ページを参照のこと。

#### 1.2.1.4 断面図の全体高

制限なし

#### 1.2.1.5 キャンバー

制限なし

#### 1.2.1.6 シャベルの周囲長、長さ、高さ（表面からの測定）

スラローム及びジャイアントスラローム 最小高 50mm\*

ダウンヒル及びスーパーG 最小高 30mm\*

\*公差 2mm

1.2.1.7 テールの周囲長（ソールからの測定）

最大高 10mm（公差 2mm）

1.2.1.8 滑走面

制限なし

1.2.1.9 滑走面の溝

制限なし

1.2.2 柔軟性

すべての剛性に関する柔軟度の制限はなし

1.2.3 体積

重量と体積に関する制限はなし

1.2.4 製造

1.2.4.1 方法

合成構造に関して制限はなし

1.2.4.2 スキー構成

滑走面：素材や寸法に関して制限はなし

トーションボックス：素材や寸法に関して制限はなし

エッジ：素材や寸法に関して制限はなし

表面：素材や寸法に関して制限なし

中心素材：素材や寸法に関して制限なし

1.2.5 耐久性

ビンディングの取り付けに関する ISO 規格 8364 に準拠

1.2.6 追加機器

1.2.6.1 下記追加機器は認められない

a) 外部エネルギーを利用するもの（ヒーター、化学エネルギー蓄電池、電池、機械的援助など）

b) 競技の外部環境を、後続の競技者に対して不利な状況にするまたはする恐れのあるもの。  
（斜面や雪を変化させる）

c) ある意図を持って使用した場合、使用者や他人に対して危険性を増大させるもの。

2. セーフティビンディング

セーフティビンディングの機能は歪みのリミッターとしてである。スキーをしている時、許容限界内ではしっかりと固定し、限界を超えた場合はスキーから解放することが求められる。

## 2.1 耐振動プレート

耐振動プレートは次の条件を考慮された場合に設置することが可能になる。

### 2.1.1 スキー表面の幅

プレートの幅はスキー表面の幅を超えてはならない。

### 2.1.2 最大高

最大高（滑走面からスキーブーツのソールまで）はすべてのカテゴリで **50mm** とする（女子、男子、U14、U16）

## 2.2 スキーストッパー

スキーストッパーはスキーのブレーキ装置で、セーフティビンディングが外れた場合、転倒したスキーヤーの周辺でスキーが直ちに停止するような機能を持っている。競技中または公式練習中にスキーストッパーのないスキーを使用することは禁止されている。解放機能の仕組みは取り付け方法による妥協をしてはならない。スキーストッパーが正しく機能することを保証することがメーカーの責任である。

## 3. スキー靴

### 3.1

スキー靴はスキーにおいて、衝撃やスキーエッジ及び他の外部から傷害を保護するために特別に開発された強固な履物である。スキー靴は足部を包み込むようにしっかりと固持しているが、足首には曲げるための空間があり、スキー技術に必要な動作を可能にし、それと同時にすべての操作をスキーにしっかりと伝える。

関連している国内および国際的なガイドラインと基準の要件を設定する。

### 3.2 スキーブーツソールの薄さ

スキーブーツソールとすべての硬軟部品を含んだかかとまでの距離は下記の通りである。

女子、男子、U14、U16 最大 43mm

マスターズ 最大 45mm (推奨)

12歳以下の子供に対する推奨事項

スキーとブーツの高さはU14およびU16のものと同様であるべきである。

## 4. スキーポール

スキーポールはスキーヤーを補助し、バランスを取りやすくする機能を持つ道具である。国内及び国際規格はスキーポールの先端、グリップ、バスケット、手革、長さなどの最小要件を規定する。障害の危険があるため金属製バスケットは認められない。

## 5. レーシングスーツ

DH、SG、GSで使用するレーシングスーツおよびその下に着る下着類は繊維表面を表裏に持っていないなければならない。表面はプラスチック加工または化学的加工（ガス状、液状、固形状）

は許されず、最低毎分 30 リットル/m<sup>2</sup> の透過性を保有しなければならない。縫い目はレーシングスーツの部品をつなぐためだけのものである。外部の折り目やダーツは認められない。レーシングスーツはすべての部分において外部から内部、内から外部の両方で同等の透過性を有していなければならない。空気透過量は伸張されていない生地 of 中央部で、10mm の水圧化で最低毎秒 30 リットル/m<sup>2</sup> でなければならない。（公差毎秒 3.0 リットル/m<sup>2</sup> あり）

競技者は全身を保護するプロテクターと呼ばれているものをすべての競技で使用が許されている。ダウンヒルにおいてはプロテクターがレーシングスーツに組み込まれてはならない。

すべての競技においてこれらのプロテクターは許可されたレーシングスーツの下に着用しなければならない。（SG、GS、SL における前腕保護および SL における下腿前部保護を除く）

プロテクターは肩、肩甲骨部、胸部、腕部、脚部において毎秒 30 リットル/m<sup>2</sup>、公差毎秒 3.0 リットル/m<sup>2</sup> の透過量がなければならない。解剖学的形状を変えてはならない。

#### レーシングスーツ測定方法

レーシングスーツは 4 カ所の選ばれた点を測定しなければならない。もし 1 点が毎秒 30 リットル/m<sup>2</sup> 未満だった場合、次の手順に従う。

- レーシングスーツは新しい 6 カ所の点で再測定を行う。
- 2 つの極値（最高及び最低）は考慮されない。
- 4 点の有効な測定値の平均を計算する。結果は毎秒 0.1 リットル/m<sup>2</sup> の精度で記録される。
- その後公差毎秒 3.0 リットル/m<sup>2</sup> が加えられる。この記録が測定の最終値となる。
- 最終値と規定値を比較する。

#### レーシングスーツにおける FIS ルール適合証明のラベル (DH/SG/GS)

要件の達成は競技中も見え続ける場所である、左脚スキー靴カフ上部に取り外しができないかたちで貼付された適合ラベルによって証明される。

適合ラベルは付録に示されている。（後述参照）

適合ラベルは次の文章が含まれていなければならない。「**Competition Suit conforms to FIS specifications 2015**」

適合ラベルはメーカー及び NSA によって、レーシングスーツ表面にプラスチック加工や化学加工（ガス状、液状、固形状）がされておらず、毎分 30 リットル/m<sup>2</sup>、公差毎秒 3.0 リットル/m<sup>2</sup> の空気透過量が証明される。

ラベルとプロンの両方の適合証明は 2017/2018 シーズン終了まで移行期間として有効である。

様々な用具に関する計測スケジュールは、FIS コントローラーより NSA またはメーカーに到達される。NSA に対して 1 シーズンで最大 4 回の計測が認められている。以前のシーズンのワールドカップ計測手順により、コントローラーは競技前計測の機会を設ける。NSA は競技会に先駆けてワールドカップで使用するレーシングスーツを測定する機会が与えられる。この計測は用具が FIS 規格に適合しているかの確認をするためのものである。



## 5.1 素材の検査

素材検査に関する連邦研究所と検査手順および検査器機のワーキンググループが共同して設定した最小空気透過量のガイドラインは有効である。レーシングスーツや下着類などの積層構造素材は空気透過性要件に適合する限り使用が許可される。

## 6. クラッシュヘルメット

### 6.1 基本原則

クラッシュヘルメットの使用はすべての FIS アルペンスキーイベントにおいて強制である。クラッシュヘルメットはスポイラーや突出部があってはならない。クラッシュヘルメットは後述の具体的な安全基準に従うこととする。

### 6.2 安全基準

アルペンスキー各種目で使用されるクラッシュヘルメットは下記安全基準を満たす必要がある。

#### 6.2.1 GS/SG/DH

##### 要求事項

-クラッシュヘルメットは ASTM 2040 と EN1077 (クラス A) の認定を満たさなければならない。

-それに加え、EN1077 の検査速度以上の 6.8m/s を合格しなければならない。

追加検査は CEN (European Committee for Standardization) 研究所を通じて発行されている。

研究所は増大スピードで EN テストを通過した機種種の検査手順を示す。

##### レーシングヘルメットにおける FIS ルール適合証明のラベル (DH/SG/GS)

要件の達成は競技中も見え続ける場所である、ヘルメット後部に取り外しができないかたちで貼付された適合ラベルによって証明される。

適合ラベルは付録に示されている。(後述参照)

適合ラベルは次の文章が含まれていなければならない。「**Racing helmet conform to FIS specifications 2013**」

メーカーにより貼付された適合ラベルは下記添付に定められた使用に従うものとする。

適合ラベルはメーカーが必要な証明 (EN1077A および ASTM2040) を得て、懸案のヘルメットが上記 6.2.1 の要求を満たす測定手順を確認していることを証明する。FIS の要請により上記計測の関係書類及び測定手順を提出しなければならない。

#### 6.2.2 SL

##### 要求事項

スラッシュヘルメットは最低 EN1077 (クラス B) または ASTM2040 の認定を受けなければならない。

注意 1: ソフトイヤーパッドの使用は許可されている。

注意 2：クラッシュヘルメットはより上位の安全基準のものを利用することができる。それは下記のものを含んでいる。EN1077 (クラス A)、SNELL98、または GS/SG/DH の基準を満たしているすべてのクラッシュヘルメット

## ラベル

上記要件への準拠は、対応した証明ラベル（例：CE ラベル）または上記 6.2.1 の適合ラベル（すなわち、GS/SG/DH のための要件を満たすヘルメットは、SL において使用可能）によって証明される。

### 6.2.3 注意事項

メーカーは製造されたヘルメットの製造物責任に関する点で唯一責任がある。

しかしヘルメットは手順にそって厳密な使用をしなければならず、事故の結果からの絶対の保護を提供しているわけではない。

### 6.2.4 変更／部分修正／追加の要素

ヘルメットはメーカーにより保証されるように変更／部分修正をせずに使用されなければならない。さらに、追加の要素／機器は、ヘルメットの表面に使用されてはならない。

### 6.2.5 マスターズにおけるヘルメットの使用

すべてのイベントにおいて、全走者と競技者は、ヘルメットの着用を義務とする。

## 7. スキーゴーグル

スキーゴーグルは、光学的に正しいレンズで天候と光線から目を保護している機器である。それらの目的は、すべての天候においてコントラストのない視界を保証することである。スキーゴーグルの使用は推奨される。航空力学の利点を得るためにスキーゴーグルを改造することは禁止されている。

## 8. スキーグローブ

グローブは天候と外力に対して、保護を提供する。グローブの着用は極力推奨される。グローブの外側表面をプラスチックでコーティングしたり、合成皮を使用し、航空力学を応用した機能追加したりする目的とした変更は許されない。グローブは肘を越えてはならない。グローブ全体の長さの保護用パッドは許されている。グローブを囲う盾状の保護物の使用は許される。

## 9. バックプロテクター

### 9.1 定義

バックプロテクターは天候や外力から競技者の背中を守る追加用具である。

### 9.2 製品仕様

バックプロテクターは競技者の背骨の解剖学的曲線に順応しなければならない。バックプロテクターの上端は脊柱部分になければならず、第 7 頸椎 (C7) より上部にあってはならない。

最大の厚みは中央部分で 45mm を超えてはならない。厚みは端に行くに従って薄くなる。航空力学特性を改善するデザインは禁じられている。バックプロテクターはレーシングスーツの下に着なければならない。

### 9.3 子供のための推薦仕様

12 年未満の子供、また U14 および U16 ではバックプロテクターを使うべきである。

#### C. ノルディック競技用品 (クロスカントリースキー)

省略

#### D. ノルディック競技用品 (スキージャンプ)

省略

#### E. フリースタイル競技用品

省略

#### F. スノーボード競技用品

省略

#### G. ビブ

##### 1. FIS 仕様アルペンビブ

###### 1.1 広告

FIS 広告ルールを参照

###### 1.2 番号

FIS 広告ルールを参照

###### 1.3 割り当て

ビブは次の割り当てをしなければならない。

女子サイズ：伸張性有り

男子サイズ：伸張性有り

###### 1.4 生地

T シャツ仕様のビブは 100% ポリエステルでインターロックとする。

###### 1.5 弾力性 (伸張性)

幅 10cm の生地：伸張性 24cm

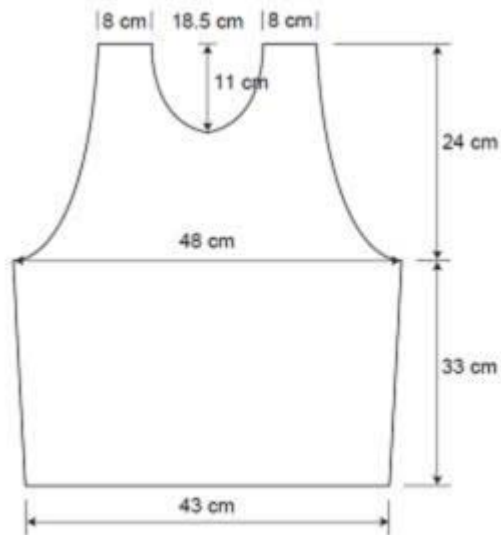
###### 1.6 縫い目

サイド：縁取りをして縫い合わせる：オーバーロックとする。

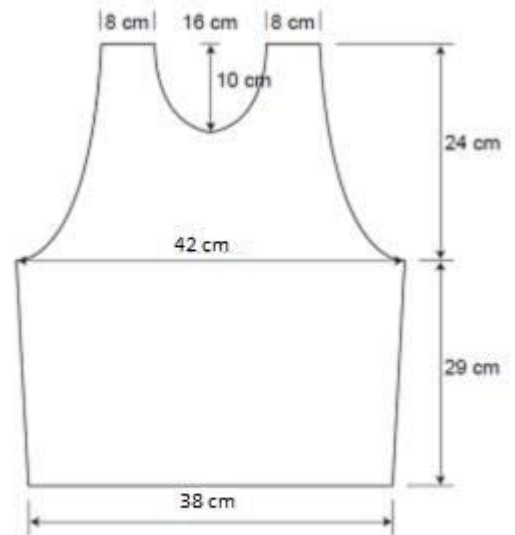
首回りおよび袖ぐりは端を整え、ダブルステッチとする。

腰周りは幅 2cm の縫い目でゴムバンドを通したダブルステッチとする。

(添付参照)



Alpine - Men:  
with elastic



Alpine - Ladies:  
with elastic

2. **FIS 仕様クロスカントリースタートビブ**  
省略
3. **FIS 仕様スキージャンプスタートビブ**  
省略

#### 競技用品の革新に関する許容手順

省略

#### 競技用品における商標

省略

Label attesting conformity with FIS specifications for Alpine racing helmets (GS/SG/DH)



Minimum Width : **10 Mm**

Minimum height : **15 Mm**

Label attesting conformity with FIS specifications for Alpine competition suits (GS/SG/DH)



Width: 30 Mm

Height: 45 Mm